

## ミャンマーの人々と連帯して

シグニス、パックス・クリスティ・インターナショナル、フォコラーレ運動の共同声明

(日本語訳)

シグニス(カトリックメディア評議会)には勇気あるビルマの人々の叫びが届いています。彼らは、合法的・民主的な選挙をミャンマーの軍事政権が転覆したことに對し、非暴力的に抵抗しています。

パックス・クリスティ・インターナショナルと、そのアジア太平洋地域のメンバーが私たちに協力してくれています。彼らは、ミャンマーの「非常事態」についての二月の声明で、国家の状況に対する重大な懸念を既に表明しています。同様に、国際フォコラーレ運動もビルマの人々との連帯において私たちと一致しています。

毎日のように、勇気ある人々が路上に戻り、たとえ兵士たちに殴打され、銃撃されても、平和的に抗議しています。彼らの多くは若者たちです。この抗議の象徴として、軍に対する人々の正当な怒りの印を、ビルマの習慣にしたがって、悪い霊から身を守るため鍋釜をたたく音のうちに聞き取ることができるでしょう。

長い間民主主義のために奮闘してきた文民的・宗教的リーダーと同様に、民主的に選挙された政府のメンバーが、捏造された罪状ゆえに恣意的な拘束を受けているのを、私たちは目撃しています。

民主主義においては真実の情報が重要ですから、ミャンマー軍が自身の行いを正当化するために行う虚報キャンペーンを私たちは拒絶します。現地で起きていることについてのニュースや情報を世界に広めたために逮捕され苦しめられているジャーナリストたちを守るよう私たちは求めます。ジャーナリストは報道の自由を享受すべきです。

国の憲法を踏みにじろうとする独裁主義を私たちは遺憾に思っています。実のところこの独裁主義は、軍の多大な力を温存する一方で、民主主義を制限しています。困難にもかかわらず、ミャンマーは人々に新しい未来への希望を与える民主主義への最初の一步を踏み出しました。この希望を回復せねばなりません。

何よりも、私たちはミャンマーの人々のメッセージに耳を傾けます。この政変は本質的に人々を圧倒し、その意志を挫くものです。結局、これは政敵や想定された社会秩序を排除することを目的にしているではありません。この政変は市民の基礎的な権利のための長年の働きを無にするものであり、自由で民主的な国というかすかな希望を打ちひしぐものです。

カトリックの組織として、私たち〔三団体〕は教皇フランシスコおよび、この政変を糾弾し、民主主義を回復する「意味ある対話」を求める世界中の文民・宗教指導者と協力します。さらに私たちは、次のことを求めて他の諸組織と協力します。

- ・アウン・サン・スー・チー氏と、拘束されている他の高官、指導者を解放すること。
- ・軍は暴力の行使をやめること。平和的に抗議している人々やジャーナリストたちを恣意的に拘束するのをやめること。
- ・ロヒンギャおよび他のエスニック・マイノリティに対して軍が犯した残虐行為についての正義と責任を果たすこと。また将来にわたってこのような犯罪と虐待を起ささないこと。
- ・国際共同体のメンバー、特にアジア太平洋地域のメンバーは、体制が退陣し民主主義を再び確立するように圧力をかけること。また、自分たちの地政学的利害のためにこの状況を利用しないこと。

私たちは世界中のシグニス、パックス・クリスティ・インターナショナル、フォコラーレのメンバーに、ビルマの人々の叫びに声を与えるよう求めます。そのために、地元メディア、全国メディアがこの状況を報じるように働きかけ、強い外交的働きかけによってこの政変に対抗し、ミャンマーに民主主義を取り戻すよう政府に訴えてください。

組織としての私たちの使命は平和を促進することです。ゆえに私たちはアジア司教協議会の長であるヤンゴン司教、チャールズ・マウン・ボーCharles Maung Bo枢機卿の言葉を支持します。「平和は可能である。平和は唯一の道である。民主主義がこの道の唯一の光である」。

ブリュッセル、2021年3月15日